

袋タイプで使いやすい！
Hagoromo
シーチキンSmile
※『シーチキン』『シーチキンSmile』『L』『マイルド』『オイル不使用シーチキン』は、はごろもフーズ株式会社の登録商標です。















◆大相撲よもやま話

関西出身の現役力士

「江戸の大関より土地の三段目」という言葉があるように、大相撲の力士と出身地との結びつきは強い。本場所の取組でも、場内アナウンスで土俵に上がった力士が地元出身とわかると、大きくて温かい拍手が沸き起こる。

三月場所の番附で関西出身の力士を確認すると、十両以上の関取がいるのは、大阪府、京都府、兵庫県の3府県だ。中でも最も多いのは大阪府。ともに寝屋川出身で、同じ相撲クラブ出身の豪ノ山と6学年上の宇良の他、朝紅龍（四条畷市）も加えた3人の幕内力士を擁し、幕下にも、朝紅龍の弟で十両目前の石崎（四条畷市）や西ノ龍（大阪市中央区）の他、幕内経験者の大翔丸（大阪市平野区）、三月場所後に巡業が行われる枚方市が出身で十両経験者の勇磨らがいる。

京都府は、十両若碇が生まれも育ちも東京都だが、父の甲山親方（元幕内大碇）の故郷である京都市西京区を出身地としている。幕下では同じ伊勢ノ海部屋の鳴滝（京都市右京区）が関取を目指して奮戦中。

兵庫県は、妙義龍（高砂市）が昨年九月場所限りで引退して十両以上の関取がいなくなってしまったが、三月場所で大辻（加古川市）が新十両を果たして空白を埋めた。幕下には豪刃雄（姫路市）、幕内経験者の北磻磨（たつの市）、家の島と家島（ともに姫路市）の兄弟らがひしめいている。

奈良県、滋賀県、和歌山県は、現在は十両以上の関取がいない。しかし、幕下には奈良県は周志（奈良市）、滋賀県は幕内経験者の鳰の湖（大津市）がおり、和歌山県は三月場所後4月1日に巡業が行われる紀の川市が出身である千代雷山の他、有田市出身の野田が初土俵以来負け越し知らずで幕下まで駆け上がってきている。


大阪府四条畷市出身の幕内朝紅龍


大阪府寝屋川市出身の幕内宇良


大阪府寝屋川市出身の幕内豪ノ山


兵庫県加古川市出身の十両大辻


京都府京都市西京区出身の十両若碇

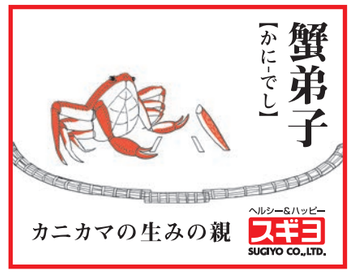
関西出身の力士（三月場所の番附で幕下以上）

出身地	幕内	十両	幕下
大阪府	豪ノ山（寝屋川市、武隈） 宇良（寝屋川市、木瀬） 朝紅龍（四条畷市、高砂）		石崎（四条畷市、高砂）、西ノ龍（大阪市中央区、境川） 延原（大阪市城東区、二子山）、新隆山（八尾市、常盤山） 勇磨（枚方市、阿武松）、欧勝竜（東大阪市、鳴戸）大翔丸（大阪市平野区、追手風）
京都府		若碇（京都市西京区、伊勢ノ海）	鳴滝（京都市右京区、伊勢ノ海）
兵庫県		大辻（加古川市、高田川）	豪刃雄（姫路市、武隈）、北磻磨（たつの市、山響）朝興貴（高砂市、高砂）、千代大豪（尼崎市、九重）家島（姫路市、山響） 家の島（姫路市、山響）
奈良県			周志（奈良市、木瀬）
滋賀県			鳰の湖（大津市、山響）
和歌山県			野田（有田市、藤島）、千代雷山（紀の川市、九重）

※（　）内は出身市区町村名、所属部屋名



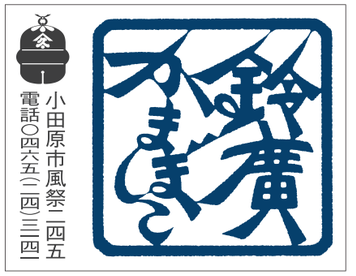




















◆三月場所の優勝力士◆◆

北の富士、栃若と並ぶ10回目の優勝

昭和48年三月場所優勝

北の富士（西横綱　14勝1敗）

昭和48年三月場所は、直前の2場所で連続優勝した琴櫻が32歳で横綱に昇進。玉の海が急逝した後、昭和46年十一月場所以降続いていた北の富士の一人横綱が9場所ぶりに解消され、北の富士が西横綱に、新横綱琴櫻が東横綱に座り、輪島、大麒麟、貴ノ花、清國の4大関が続く番付となった。

注目の新横綱琴櫻は、初日から4連勝と好発進し、五日目に西張出大関清國に物言い取り直しの相撲で引き落とされて初黒星を喫したものの、六日目から立ち直って7勝1敗で前半戦を終えた。

そんな琴櫻を上回る快進撃を続けたのが先輩横綱の北の富士。初日に東前頭筆頭黒姫山を危なげなく寄り切ると、二日目は西小結三重ノ海、三日目は西前頭三枚目増位山、四日目は東関脇魁傑をいずれも上手投げ、五日目は東前頭四枚目長谷川を首投げでねじ伏せて早くも単独首位に立った。六日目は西大関大麒麟を外掛け、七日目は東前頭三枚目羽黒岩を上手出し投げ、八日目は西関脇高見山を上手投げで退けてストレートで勝ち越し。一人横綱の重圧から解放されたためか伸び伸びとした相撲が光り、八日目を終えて優勝争いは、全勝で単独首位の北の富士を、1敗で琴櫻と昇進3場所目の東大関輪島の2人が追う展開となった。

九日目、北の富士は西前頭筆頭旭國を突き出して連勝を9に伸ばしたが、琴櫻は魁傑に突き倒されて2敗目を喫したため、1敗で追うのは輪島だけとなった。その後も北の富士は好調を維持し、十日目は東小結大受を引き落とし、十一日目は19歳のホープ、西前頭五枚目北の湖を上手投げ、十二日目は清國を寄り切り、十三日目は東前頭八枚目陸奥嵐を上手投げで退けて破竹の13連勝。輪島も白星を重ねて食らいつき、十四日目、全勝北の富士と1敗輪島の直接対決を迎えた。

注目の一番で先手を取ったのは北の富士。突っ張ってから叩いて泳がせて右上手をつかみ、左を差して上手を与えずに寄り立て、右外掛け、右上手投げと攻め立てる。この猛攻をしのぎ続けた輪島だったが最後は力尽きて寄り切られ、北の富士の3場所ぶり10回目の優勝が決まった。千秋楽結び、横綱同士の一番では北の富士が琴櫻に吊り出されて全勝こそ成らなかったものの、優勝10回は栃錦、若乃花と並び、当時としては大鵬、双葉山に次ぐ史上3位の記録だった。

この場所、終盤まで北の富士と優勝を争った輪島は翌五月場所で全勝優勝して場所後に横綱に昇進。北の富士は、続く七月場所こそ琴櫻と14勝1敗同士の決定戦に臨んだものの、以後は休場が増えて輪島と北の湖に主役の座を譲り、昭和49年七月場所限りで引退したため、昭和48年三月場所の10回目の優勝が、最後の賜盃となった。



北の富士の堂々たる横綱土俵入り



10回目の優勝を果たした北の富士が、九重部屋の関取2人を従えて優勝パレード。左は北瀬海（東前頭二枚目）、右はこの場所新十両の千代桜（東十両十二枚目）

◆大相撲「モノ」語り◆◆

ほうき

取組の合い間に土俵を整備するのは呼出しの仕事。勝負審判交代のタイミングなどには、ジョウロで水をまき、2種類のほうきを巧みに使い分けて、熱戦で乱れた土俵上の砂をはいて手際よく整えていく。

1種類目は「竹ぼうき」。サイズが大きくて一本一本が太い、一般にはおもに屋外で使われるほうきで、砂を集めたり、砂と水をなじませたり、大まかにならしたりするのに使われる。

2種類目は「手ぼうき」。サイズが小さくて一本一本が細く、一般にはおもに屋内で使われるほうきで、砂をきれいに整えて仕上げるために使われる。土俵の東西の塩かごのそばに立てかけられ、勝負審判交代の時だけでなく仕切り直しの間にもこまめに使われている。

特に大切なのが、俵の外側にグルッと設けられた「蛇の目」と呼ばれる部分の整備だ。際どい勝負で物言いがついた際、足が出たかどうかの見極めにも使われるため、制限時間いっぱいになると、足の指の後が残っていないよう念入りにチェックし、整えている姿が見られる。



仕上げに「手ぼうき」を使って、蛇の目の部分の砂などをきれいに整える



まず「竹ぼうき」を使って砂と水をなじませ、大まかに整える

100
おかげさまで100周年
公益財団法人 日本相撲協会









